

平成二十七年卒業式式辞

暖かな冬でしたので、梅の花の開花が早く、まさに最盛期のこの頃ですが、国際園芸アカデミーのキャンパスでは、いろいろな花が咲き乱れる春の花の時期が始まるうとしています。

本日、ここに岐阜県立国際園芸アカデミーを卒業してゆく十七名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

ご参列の保護者の方々にも、心よりお祝いを申し上げます。

また、この度はご多忙にもかかわらず、岐阜県議会議員の先生方、可児市長様をはじめ、多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、ここに岐阜県立国際園芸アカデミー卒業式を挙行できますことは、誠に大きな喜びでございます。皆様方には平素から本校の教育に多大なご支援、ご協力を賜っておりますことに、この場をお借りしまして改めて厚く御礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さんは二年前に、園芸を生涯の生業とすべく、大いなる志を胸に入学してこられました。今、この日を迎えるにあたって、このキャンパスで学友と過ごした間の楽しかったことや苦しかったことなど色々な思い出がめぐってくると思います。共に学んだ友人、キャンパス、時間など、その思い出はお互いの人生にとってかけがいのないものです。その経験やここで得た人と人のつながりは、きっとこれから的人生にとって大切な糧となることと願っています。そして、ここで学んだことを誇りとして自信をもって生きて行ってください。

ところで、皆さんが入学された際に、私が入学式の式辞で述べた、彫刻家、平櫛田中による「いまやらねばいつできる、わしがやらねばたれがやる」という言葉を覚えておられるでしょうか。この言葉を引用し、器用に要領よく生きていくのではなく、この彫刻家の人生のように、愚直にこつこつと積み重ね技術や知識を磨いていってほしいと願っています。在学中、まじめに一步步ずつ取り組み、学ぼうとしていた技術や知識を磨けたでしょうか。私は、皆さんそれぞれがそのことを自覚し、すばらしい学びの経験をされたと確信しています。

ここで社会への門出にあたり、手元にも示しました、これから述べる先人の言葉を捧げたいと思います。

その言葉は、「やりたいことをやる」のが仕事ではなく「やるべきことをやる」のが仕事。」です。これは日頃皆さんが目にするいろいろな商品のデザインで有名なグラフィックデザイナーの佐藤卓（さとう・たく）氏の言葉です。少々手厳しい言葉かもしれませんが、仕事とはそういうものであり、そのような心構えをもつてすることにより、自然と仕事面白くて仕方がないものになるということを意味しています。そのように考え仕事を続けてゆくと、「やるべきこと」が「やりたいことに」変わっていくということです。物事の本質を理解するには、長い時間が必要だということです。いずれ、現在の60歳定年も延長されるでしょうから、これから働く皆さんの現役生活は50年はあるかもしれません。50年を如何に生きるか、仕事のなかにどのようなやりがいを見出せるかとても大切なことです。もともと皆さんは、植物が好きで、植物を育て、植えて飾ることを生業にすべくこの道に進んで来られた、大変恵まれた道を歩んで来られています。こんなやりがいのある道はそうあるものではありません。

2年前にこの学校に入学されて来られた際に、誰しも将来このようになりたいという夢、志を抱いて入学されて来られたと思います。今、世の中の若者が夢を持たなくなっていると言われていますが、この学校に入って来た皆さんはそんなことはないと思います。花や緑に興味をもち、人々に癒しや感動をもたらしたいと思って入学して来たと思います。これから社会に出て、色々な苦難が待ち構えていると思います。その苦難に遭遇した際に初志を振り返り、私の紹介したこの言葉も思い出しながら、自らが目指した仕事に誇りを持ち乗り越えて行ってほしいと思います。

最後にあたり、ここにめでたく皆さんが卒業を迎えられるのは、日頃の努力のたまものであるのはもちろんですが、同時に周りで支えてくれたご家族と教職員のお陰でもあることも伝えておきたいと思います。その感謝の気持ちを忘れず、それに報いるのは、これからの人生において社会に還元してゆくことに他なりません。そのことをくれぐれも忘れないでください。

以上、皆さんの将来に幸多きことを祈って、はなむけの言葉といたします。

平成二十八年三月二日

岐阜県立国際園芸アカデミー 学長 上田善弘